保 護 者 の 皆 様

令 和 6 年　3 月
摂津市立味舌小学校
校長　　奥野 友紀

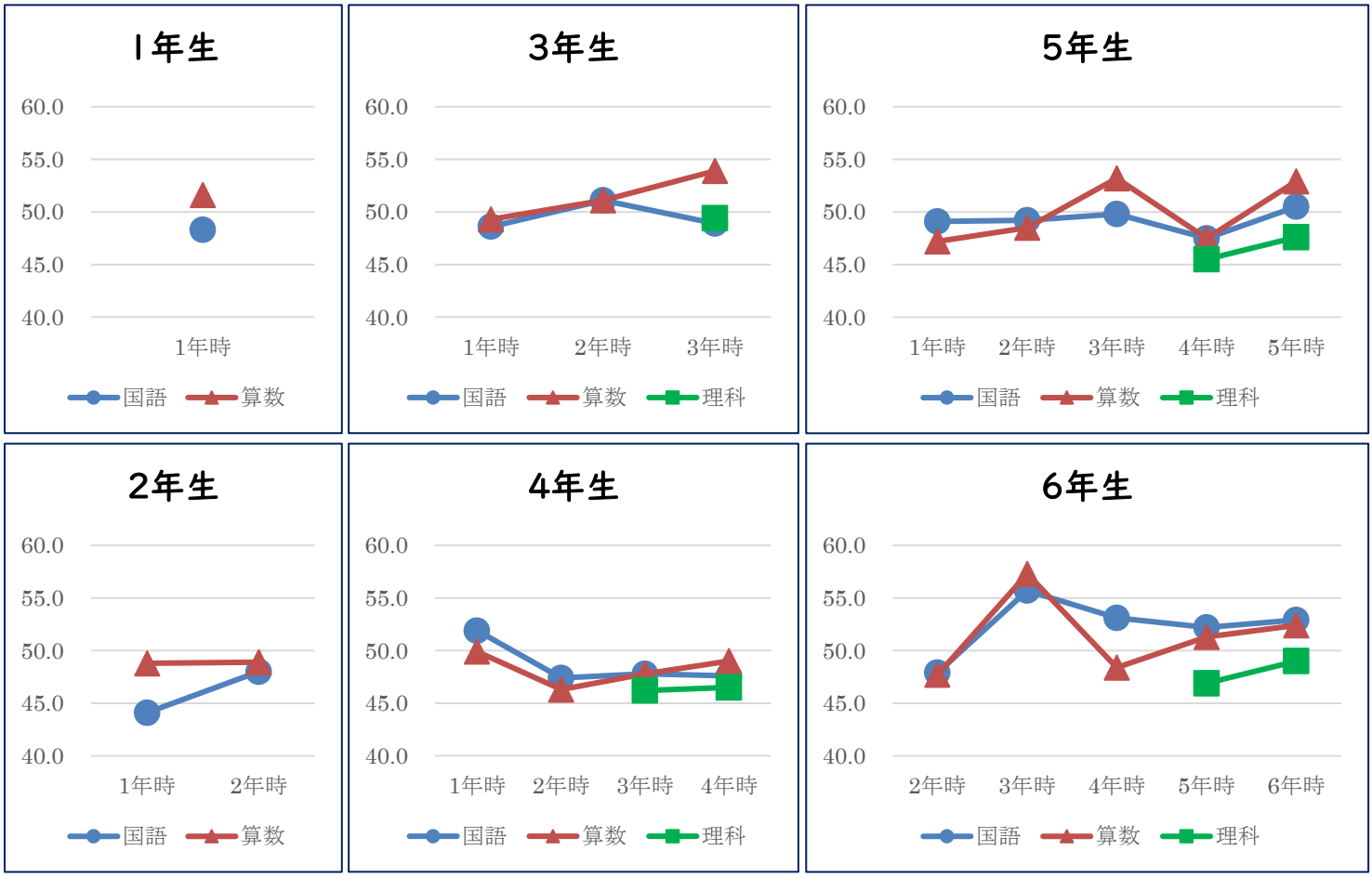
令和5年度摂津市学力定着度調査の結果から

1. 学校全体の結果概要

学年・教科での差はありますが、全教科（国語・算数・理科）が全国平均とほぼ同様で、おおむね良好な状況です。

同一集団の経年比較では、前年度の結果（国語・算数）に比べ、全体的に上がる傾向が見られました。

<同一集団の経年比較>



※ 6年生については、1年時は受検対象外だったため、結果はありません。

※ 年度によって問題の難易度が異なるため、全国平均を 50.0 とした時の本校の平均スコアで表示しています。

教科	よくできていた点	課題が見られた点
国 語	・条件に合わせて書く・書き直すことだけでなく、書くことから内容の読み取りへとつながってきている。 ・無回答が減少傾向である。	・語彙力に課題が見られる。 ・物語文、説明文ともに、一度読んだだけでは、内容を理解するのが難しい傾向にある。
算 数	・四則演算の基本的な計算の力は、日々の反復練習により身に付く傾向にある。 ・解決したことのある課題に類似した問題については、正答率が高い傾向にある。	・量感を養うことができていない。 ・考え方や算数用語を使った説明記述が不十分である。
理 科 （3～6年）	・自分の経験と密接に関係している単元に関しての正答率が概ね高い傾向にある。	・学習した内容を応用することに課題が見られた。 ・知識の定着が不十分であった。
生活状況に関わる調査 （i-check）	・対話・話し合いの項目が上昇している。 ・友達の支えを感じることで、相手を思いやる気持ちが高い傾向にある児童が多い。	・学習習慣や学習意欲、学級の規範意識において低い傾向にある。

2. これまでの取組みの効果検証と改善策

国語

・「問い」を持った授業づくり ⇒ 算数をはじめとして、教科を限定することなく、子どもから出てくる「問い」を中心に学びの必然性を重視した授業づくりに努め、主体性を育む。

・ 自分の意見を書く学習 ⇒ 書き換え学習を応用しながら、授業のふりかえりでの短作文を含めて、自分の意見を書く力の定着を図る。

・ 読書活動 ⇒ 様々な作品にふれることで、漢字の読みや語彙力向上などにつなげる。

算数

・ 基本的な計算能力の定着 ⇒ 反復練習の継続により計算能力の向上が見られており、今後も継続して取り組む。

・ 考え方への取組み ⇒ 日常生活の中から既習事項を活用する問題場面を学習に取り上げたり、学習用語を意識して説明させたりして授業改善を図る。

理科

・ 実体験を大切にした取組み ⇒ 自然科学への興味関心は高まりつつある。今後は、身近な事象から知識につながるような授業改善を図る。

生活状況に関わる調査（i-check）より

・ いじめ問題等への取組み ⇒ 引き続き全校で人権意識を高める活動を考え、取り組む。

・ 学習習慣の定着 ⇒ チャレスタ（自主学習）の効果がみられるため、内容を検討しながら、引き続き学習習慣の定着に向けて努力していく。

・ 学級の規範意識の向上のために ⇒ 対話などを通して、必要性を考えさせていく。

3. 学校としての次年度の取組み計画

・ つながりを意識した授業づくり

・ 自主学習への積極的な取組み

・ 国語・算数におけるミニプリントの実施

・ 読書習慣定着のための取組み